

説教余滴『土方殺すにゃ』2019年1月13日、

五月には十連休とすることを政府が決めました。新天皇が即位することへの祝意の表れ、とでも理由を付けるようである。国民は、有給の休みが増えれば喜ぶものと考えているらしい。

昔、古代ローマでは、為政者の心得として「市民にはパンとサーカスを与える」ことが語り伝えられていたようです。パンは、市民が必要とする食料。貧しい階層には無料配給していたようです。そして、サーカスは、娯楽の総称と考えてよいでしょう。コロシウムにおける各種の競技。ある時期には、キリスト教徒の集団処刑や遠征軍司令官の凱行など。こうしたものを絶やさないようにすれば、市民は反乱を起こしたりしないものだ、と考えていました。実際には地方では独立を求めて、帝国への反乱は起こりました。ローマ中央と地方では騒乱の原因は違うはずですが、同一に論ずることはできないでしょう。

それにしても、2000年以上昔の政治家の考えと、現代日本の政治家・行政官の考えが良く似ていると思いませんか。大型連休を与えれば、大勢の国民は海外旅行でも楽しむだろう。国内人口は減り、反対勢力や抗議行動をしようとする者の数も減る。国内の旅行者も増えれば、消費増税で落ち込みが心配される景気にも好影響が出るだろう。参院選挙にも良い影響が出て、自民党・安倍政権は安泰と踏んでいるのでしょう。

国民は、自分たちに似合う政治家を持つことしかできない。

日本の国民は低く見られています。長いこと、誉められっぱなしだ、と感じます。

「土方殺すにゃ刃物はいらぬ、雨の三日も降ればいい」

既に廃れた文句かもしれませんが。土方・人足は、ある時期にはニコヨンと呼ばれた日雇いの低賃金単純労働者です。ギリギリで働いています。雨のため働き口がなければ飢えてしまいます。現代の派遣労働者は、十日も派遣先がなくなったらどうするのでしょうか。